

平成20年5月19日

各 位

会 社 名 株式会社 梅 の 花
代 表 者 名 代表取締役社長 梅 野 重 俊
(コード番号 7604 東証第二部)
問 合 せ 先 専 務 取 締 役 本 多 裕 二
T E L 0942-38-3440

特別損失の計上並びに平成20年9月期中間期及び通期業績予想の修正について

最近の業績動向等を踏まえ、平成19年11月22日に発表いたしました平成20年9月期（平成19年10月1日～平成20年9月30日）中間期及び通期の業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 業績予想

(1) 中間連結予想 (平成19年10月1日～平成20年3月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前 回 予 想 (A) (平成19年11月22日発表)	15,348	848	783	197
今 回 予 想 (B)	14,938	285	△ 84	△ 737
増 減 (B-A)	△ 409	△ 563	△ 868	△ 934
増 減 率 (%)	△ 2.7	△ 66.4	—	—
前中間期実績(平成19年9月中間期)	10,376	766	728	419

参考：1株当たり予想当期純利益（通期）△12,773円26銭

(2) 中間個別予想 (平成19年10月1日～平成20年3月31日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前 回 予 想 (A) (平成19年11月22日発表)	3,591	137	130	72
今 回 予 想 (B)	3,584	93	78	△ 314
増 減 (B-A)	△ 7	△ 43	△ 51	△ 386
増 減 率 (%)	△ 0.2	△ 31.9	△ 39.4	—
前中間期実績(平成19年9月中間期)	3,384	98	115	7

参考：1株当たり予想当期純利益（通期）△5,445円75銭

(3) 通期連結予想 (平成19年10月1日～平成20年9月30日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A) (平成19年11月22日発表)	29,582	994	853	90
今回予想 (B)	28,912	322	△76	△791
増減 (B-A)	△670	△672	△929	△881
増減率 (%)	△2.3	△67.5	—	—
前期実績 (平成19年9月期)	20,079	950	869	471

参考：1株当たり予想当期純利益 (通期) △13,721円85銭

(4) 通期個別予想 (平成19年10月1日～平成20年9月30日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A) (平成19年11月22日発表)	7,012	139	137	73
今回予想 (B)	7,058	40	33	△318
増減 (B-A)	46	△98	△104	△392
増減率 (%)	0.7	△70.7	△75.9	—
前期実績 (平成19年9月期)	6,601	100	128	△130

参考：1株当たり予想当期純利益 (通期) △5,521円02銭

2. 修正理由及び特別損失の計上について

(1) 中間連結予想 (平成19年10月1日～平成20年3月31日)

- ① 売上高につきましては、主力である梅の花業態の既存店において、前年同期に対し2.2%減と予想しておりましたが、6.8%減で推移いたしました。既存店計画比4億69百万円減、前期出店店舗は計画比11百万円減、今期新規店舗は計画比43百万円増、株式会社古市庵は計画比28百万円増となり、前回予想比4億9百万円 (△2.7%) 減と予想しております。
- ② 営業利益及び経常利益につきましては、既存の梅の花業態において、売上高の減少及び仕入価格が見込み以上に高騰したことによる原価の増加で売上総利益が減少いたしました。また、新たにグループ会社となった株式会社古市庵は、仕入価格が見込み以上に高騰したことによる原価の増加で売上総利益が減少、また、株式会社古市庵のデリバティブ取引による評価損等により、前回予想比8億68百万円減を予想しております。
- ③ 特別損失につきましては、4月に移店した「青山店 (東京都)」の閉店損失引当金繰入額59百万円、遊休事業用地及び古市庵29店舗の減損損失3億50百万円等により、4億69百万円を見込んでおります。
- ④ 従いまして、中間連結業績の見通しは売上高149億38百万円、営業利益2億85百万円、経常損失84百万円、中間純損失7億37百万円を予想しております。

(2) 中間個別予想 (平成19年10月1日～平成20年3月31日)

- ① 売上高につきましては、ほぼ計画通りで前回予想比△7百万円(△0.2%)減となる見込みであります。
- ② 営業利益及び経常利益につきましては、主に仕入価格が見込み以上に高騰し原価が増加したことで売上総利益が減少し、前回予想比51百万円減となる見込みであります。
- ③ 特別損失につきましては、遊休事業用地の減損損失3億1百万円、子会社に対する貸倒引当金繰入額40百万円等により、3億48百万円を見込んでおります。
- ④ 従いまして、中間個別業績の見通しは、売上高35億84百万円、営業利益93百万円、経常利益78百万円、中間純損失3億14百万円を予想しております。

(3) 通期連結予想 (平成19年10月1日～平成20年9月30日)

- ① 売上高につきましては、梅の花業態の既存店において、前年同期に対し2.2%減の予想を下半期5.0%減と見直し、前期出店店舗、今期新規店舗及び株式会社古市庵を現在の進捗にて見直し、前回予想比6億70百万円(△2.3%)減を予想致します。
- ② 営業利益及び経常利益につきましては、4月に「青山店(東京都)」、「横手店(秋田県)」、他1店舗の出店費用及び、仕入価格の高騰による原価の増加等を見込み、前回予想比9億29百万円減を予想致します。
- ③ 特別損失につきましては、4月に移店した「青山店(東京都)」の閉店損失引当金繰入額59百万円、遊休事業用地及び古市庵29店舗の減損損失3億50百万円等により、4億77百万円を予想致します。
- ④ 従いまして、通期連結業績の見通しは、売上高289億12百万円、営業利益3億22百万円、経常損失76百万円、当期純損失7億91百万円を予測しております。

(4) 通期個別予想 (平成19年10月1日～平成20年9月30日)

- ① 売上高につきましては、前回予想比46百万円(0.7%)増を予想致します。
- ② 営業利益及び経常利益につきましては、仕入価格の高騰による原価の増加等を見込み、前回予想比1億4百万円(△75.9%)減を予想致します。
- ③ 特別損失につきましては、遊休事業用地の減損損失3億1百万円、子会社に対する貸倒引当金繰入額40百万円等により、3億50百万円を予想致します。
- ④ 従いまして、個別業績の見通しは、売上高70億58百万円、営業利益40百万円、経常利益33百万円、当期純損失3億18百万円を予想しております。

以 上